■藤原定家　　歌人。和歌を革新し，歌聖として崇められた。「新古今和歌集」「小倉百人一首」選者。日記「明月記」を遺した。
ふじわらのさだいえ
・・・・・・1162＝　　_藤原俊成の子に生まれる。
母は藤原親忠の女で，初め藤原為経(寂超)の妻となり隆信を生み，のち俊成の妻となった。兄は10人以上あったが成家のほかはすべて出家，姉も10人以上あり妹が１人あった。

源頼政内昇殿1166＝ 4歳：五位。
清盛太政大臣1167＝ 5歳：

平徳子入内・1171＝ 9歳：

法然浄土宗始1175＝13歳：赤斑瘡にかかり，重態に陥る。侍従。

鹿ヶ谷事件・1177＝15歳：_疱にかかり，危篤に陥る。以後，終生呼吸器性疾患，神経症的異常に悩まされた。
_この間，早くも出詠。重病出家した父俊成から"古今伝授"を受ける。

源氏一斉蜂起1180＝18歳：_梅花春月の景に一種狂的な興奮を覚え，独特の妖艶美を獲得した。日記「明月記」を書き始める。
平清盛没・・1181＝19歳：「初学百首」，
・・・・・・1182＝20歳：_「堀河院題百首」は父母だけでなく，広く称賛を呼んだ。

_生来強剛な性格をもち，それが病的神経に強められて反抗好争の人となり，
平氏滅亡・・1185＝23歳：_少将源雅行を殿上でなげうって除籍され，
九条兼実摂政1186＝24歳：_解除後，九条家の家人となる。妖艶美に拠って和歌革命を行う(寂蓮，慈円らと「二見浦百首」)。和歌革命は天下貴賤から"新儀非拠達磨歌"との誹謗を受け，14年間苦境にあえいだが，九条兼実の庇護のもと，慈円，良経らと歌を贈答。
・・・・・・1188＝26歳：父俊成が「千載和歌集」完成。
奥州藤原滅亡1189＝27歳：

鎌倉幕府始・1192＝30歳：
・・・・・・1193＝31歳：母が死去。

・・・・・・1198＝36歳：父俊成が「古来風体抄」完成。_後鳥羽院が土御門天皇に譲位して，転機を迎える。
源頼朝没・・1199＝37歳：
梶原景時征討1200＝38歳：*後鳥羽院の「正治百首」の列に加えられて一躍宮廷歌壇首位に抜擢され，その革命的歌風は見る間に全歌壇を圧倒する新風となった。
・・・・・・1201＝39歳：_さらに，後鳥羽院の寵により熊野御幸の列に加えられ，「新古今和歌集」の撰者を命ぜられた。
・・・・・・1202＝40歳：長い間待ち望んだ左近衛権中将に昇進。
執権政治始・1203＝41歳：
その撰集の仕事と夜を日につぐ歌会，歌合に彼は虚弱の身に鞭うって活躍したが，
源頼家暗殺・1204＝42歳：_父俊成が死去する頃から，後鳥羽院との調和が破れ，「新古今集」の竟宴にも出席しなかった。
新古今集・・1205＝43歳：_謹直精励な彼はその後も「新古今集」の切継ぎの仕事に全力を尽くして撰進。後鳥羽院の関心は関東討伐に向かい和歌を離れたので，歌壇は順徳院の手に移り，定家も新歌壇の人となって関係はいよいよ悪化。
ﾓﾝｺﾞﾙ帝国・　1206＝44歳：「秋篠月清集」を書写。
専修念仏禁止1207＝45歳：「明月記」には，この年，愛猫を放し飼いの犬に咬み殺されたことが記されている。*「最勝四天王院障子和歌」の撰定によって両者の関係は最後的に決裂した。
・・・・・・1209＝47歳：「新古今集」を書写。_鎌倉の源実朝との関係はしだいに親密となり，定家から実朝に「近代秀歌」を贈り，
・・・・・・1211＝49歳：従三位。
北条覇権確立1213＝51歳：相伝の「万葉集」を献じなどした。
職人歌合・・1214＝52歳：参議となった。「古今集」を書写(その後も度々書写)。
・・・・・・1216＝54歳：自作の和歌集「拾遺愚草」。歌学書「愚見抄」。

源実朝暗殺・1219＝57歳：歌学書「毎月抄」。
愚管抄・・・1220＝58歳：_順徳院内裏歌会での詠歌により，ついに，後鳥羽院の勅勘を受けるに至ったが，
承久の乱・・1221＝59歳：「後撰集」書写。_承久の乱が起こり，後鳥羽院，順徳院，土御門院とも配流される。歌学書「顕註密勘」。
・・・・・・1222＝60歳：*承久の乱後の京都は定家の主家九条家，妻の実家西園寺家の支配に移り，定家は急に政界・歌界に権威をもつようになると同時に，嫡子為家の妻として関東第一の富強宇都宮家の女をめとったので家計もきわめて富裕となり，一条京極に豪壮な邸宅を営むに至った。
定家の関心は和歌から離れ主として古典の書写に向かった。歌学書「三代集之間事」。
親鸞真宗始・1224＝62歳：
北条政子没・1225＝63歳：「源氏物語」書写。_いわゆる「小倉百人一首」を撰する。
公家将軍始・1226＝64歳：歌学書「僻案抄」。
・・・・・・1229＝67歳：「長秋詠藻」書写。
・・・・・・1230＝68歳：「和漢朗詠集」書写。
・・・・・・1231＝69歳：「大和物語」「拾遺集」書写。
御成敗式目・1232＝70歳：歌学書「定家卿長歌短歌之説」。_勅命により「新勅撰集」の撰進にあたる。
・・・・・・1233＝71歳：出家。「千載集」書写。
金滅亡・・・1234＝72歳：「伊勢物語」「後撰集」書写。
・・・・・・1235＝73歳：「土佐日記」書写。_「新勅撰集」を完成，道家に献上。

名誉心が強く官位の昇進には激しく焦心し，自己の健康には異常に注意し咳が一つ出ても日記に記すほどであった。恩に感じては一身を顧みず，主家の不幸にあっては自分たち夫妻も２人の娘もすべて出家してその恩に殉じた。_定家が19歳から死の直前まで書き継いだ漢文日記が「明月記」である。
・・・・・・1241＝79歳：_没した。
写書は上記の他，「金槐集」「久安百首」「古来風体抄」「俊頼髄脳」「和泉式部集」「みつの浜松」「夜半のねざめ」「更級日記」など。歌学書も「秀歌体大略」「秀歌大体」「定家十体」「定家物語」「定家卿相語」などがある。自己の和歌集「百番自歌合」の他，一般の歌を集めたものに「二四代集」「八代集秀逸」があり，自作の物語に「松浦宮物語」がある。

吉川弘文館人物叢書，「日本史を変えた人物200人」，「日本史重要人物101」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，「王朝の歌人たち･中世の歌人たち」，日本の古典名著，